

調剤内規

(平成 26 年 4 月 第 7 版)

八尾市立病院 薬剤部

— 目次 —

調剤運用	3
処方箋区分と出力物	3
出力物の記載事項	3
処方鑑査	3
錠剤・カプセル剤	4
基本的原則	4
計数調剤例	6
一包化調剤例	8
散剤	9
基本的原則	9
散剤調剤例	11
水剤	12
基本的原則	12
投薬瓶の選択方法	14
水剤調剤例	16
その他特殊な水剤の調剤	18
外用剤	20
基本的原則	20
外用調剤例	21
その他特殊な外用剤の調剤	21

調剤運用

処方箋区分と出力物

<外来>

処方箋区分	処方箋	薬袋 (ラベル)	薬品情報紙	手帳	その他
院外	控え	なし	なし	なし	調剤機器へデータを送信しない
院内	本箋	あり	あり	あり	
外来済み	本箋	なし	なし	なし	調剤機器へデータを送信しない

<入院>

処方箋区分	処方箋	薬袋 (ラベル)	薬品情報紙	その他
定期	本箋	あり	あり	
臨時	本箋	あり	なし	
つなぎ	本箋	あり	あり	
緊急	本箋	あり	なし	
退院	本箋	あり	あり	
入院済み	本箋	なし	なし	調剤機器へデータを送信しない
中止	本箋	なし	なし	調剤機器へデータを送信しない

出力物の記載事項

	単独項目	共通項目
処方箋	年齢・医師名・性別・処方内容・調剤内容	診療科・病棟名・処方区分・処方番号・オーダー番号・患者氏名・患者 ID・用法用量・投薬日数・オーダーコメント・薬品名・調剤日・服用開始日・病院名
薬袋	枚数表示・病院住所など・注意書き	
ラベル	年齢	
薬品情報紙 (入院定期)	製剤写真・使用上の注意書き	患者氏名・患者 ID・性別・診療科・出力日・枚数表示・薬品名・用法用量・投薬日数・薬効
薬品情報紙 (外来)	製剤見本・引換券 No・副作用	

処方鑑査

散剤及び水剤を調剤する際は、調剤鑑査システム（散剤用）及び水剤鑑査システム（水剤用）を使用する。また、システムの詳細についてはそれぞれの取り扱い説明書を参照すること。

錠剤・カプセル剤

基本的原則

(1) 処方箋区分と調剤方法

外来（入院患者の退院処方含む）	入院（定期・臨時・緊急）
頓服薬を含め、基本的にヒート調剤とする。但し、オーダーより一包化指示された場合は一包化調剤とする。	頓服薬を含め、基本的に一包化調剤とする（処方毎もしくは服用時間毎）。但し、オーダーより一包化指示がない場合はヒート調剤とする。

(2) 優先剤形

原則として、剤形は処方箋に記載されている剤形どおり調剤する。但し剤形の指示がない場合で、錠剤やカプセル剤の含有量で割り切れる場合は、錠剤やカプセル剤を最優先して調剤する。

(3) 調剤単位

処方毎に調剤し、一回服用量・用法・投薬日数のいずれかが異なるものは薬袋を別に発行する（散剤が同一処方処方に処方されている場合を含む）。

(4) 単独調剤

薬品マスターに単独処理の指定を受けた薬剤については、単独調剤を行い薬袋は別に発行する。

(5) 服用方法に条件がつく場合

隔日投与、服用日指示などオーダー指示によりフリーコメント入力のある場合、薬袋にフリーコメント内容が記載されていることを確認する。

(6) バラ錠及び半錠の取り扱い

バラ錠及び半錠はすべて分包して調剤する。

(7) 調剤添付物

内服薬の使用説明書などは外来処方及び退院処方の場合に限り、調剤時に添付する。また、外用薬の使用説明書などは処方箋区分に関係なくすべての調剤時において添付する。

薬剤使用説明書リスト

内服薬		外用薬	
アーガメイト 20%ゼリー	チラーヂンS錠	アドエア 100 ディスカス	ネオステリングリーンうがい液
アクトス錠	沈降炭酸カルシウム錠	アドエア 125 エアゾール 120 吸入	ネグミンガーグル
アマリール錠	テネリア錠	アルピニー坐剤	ネリプロクト坐剤
アレジオンドライシロップ	トラゼンタ錠	イナビル吸入粉末剤 20mg	ネリプロクト軟膏
ウブレチド錠	ナゼアOD錠	エコリシン点眼液	バソレータテープ
エクア錠	ニトロペン舌下錠	エスクレ坐剤	パルミコート吸入液
オゼックス細粒小児用	ニフレック配合内用剤	オルバスコ 100 μ g インヘラー吸入用	フランドルテープ
グラケープセル	ネオーラルカプセル	オンプレス 150 μ g 吸入用カプセル	フルタイドロタディスク 50
クラリスロマイシンDS	ネシーナ錠	キサラタン点眼液	フルタイド [®] 200 ディスカス
グリクラジド錠	バラクルード錠	強力ポステリザン軟膏	フルナーゼ点鼻液
グリベンクラミド錠	バルトレックス顆粒	ケナログ口腔用軟膏	ホクナリンテープ
グルファスト錠	ファスティック錠	サリベートエアゾール	ボルタレンサボ
ケイツーシロップ	ベイスン錠	シムビコートタービュヘイラー	ミオコールスプレー
サイトテック錠	ベネット錠	新レシカルボン坐剤	メブチンエアー
ジスロマック細粒小児用 10%	メトグルコ錠	スピリーバ吸入用カプセル	リズモン TG 点眼液
ジャヌビア錠	メルカゾール錠	スピリーバ 2.5 μ g レスピマット	リレンザ
セイブル錠	ユリノーム錠	ダイアアップ坐剤	ロキソニンゲル
セフカペンピボキシル小児用細粒	ラキソベロン内用液	タリビッド耳科用液	
セフジトレンピボキシル小児用細粒	リウマトレックスカプセル	デキサルチン口腔用軟膏	
タケプロンOD錠	レベトールカプセル	トラバタンズ点眼液 0.004%	
タミフルカプセル	ワーファリン錠	ナウゼリン坐剤	
タミフルドライシロップ		ニトロダームTTS	

注射薬			
アビドラ注ソロスター	ノボラピッド 30 ミックス注フレックスペン	ビクトーザ皮下注 18mg	ヒューマログミックス 50 注ミリオープン
トレシーバ注フレックスタッチ	ノボラピッド 70 ミックス注フレックスペン	ヒューマログ注ミリオープン	ランタス注ソロスター
ノボラピッド注フレックスタッチ	ノボリンRフレックスペン		

計数調剤例

(1) 錠剤（カプセル剤）が一種類の場合

薬袋に薬剤を総数入れ、薬袋の記載事項を確認する。

①レバミピド錠	3錠
【毎食後すぐ】	14日分
②セルベックスカプセル	3カプセル
【毎食後すぐ】	14日分

<薬袋表現>

- ①1回に錠剤1錠お飲みください。
- ②1回にカプセル1個お飲みください。

(2) 錠剤（カプセル剤）が二種類以上の場合

★一回服用量・用法・投薬日数が同じ場合★

同一薬袋に全ての薬剤の総数を入れ、薬袋の記載事項を確認する（種類数も記載される）。

①コメリアンコーワ錠 50	3錠
メチコバル 500 μ g	3錠
【毎食後すぐ】	7日分
②アルタットカプセル	2カプセル
ドグマチールカプセル	2カプセル
【朝夕食後すぐ】	7日分
③ノイチーム錠 90mg	3錠
セルベックスカプセル	3カプセル
【毎食後すぐ】	7日分

<薬袋表現>

- ①1回に錠剤各1錠お飲みください（2種類）。
- ②1回にカプセル各1個お飲みください（2種類）。
- ③1回に錠剤1錠、カプセル1個お飲みください。

★一回服用量・用法・投薬日数のいずれかが異なる場合★

薬袋を複数枚発行し、一回服用量・用法・投薬日数が同じ薬剤のみ同一薬袋に総数を入れる。また、薬袋の記載事項を確認する（種類数も記載される）。

①カルボシステイン錠 250mg	6錠
アストミン錠	6錠
ムコサル錠	3錠
【毎食後すぐ】	5日分
②アルタットカプセル	2カプセル
【朝夕食後すぐ】	7日分
ドグマチールカプセル	3カプセル
【毎食後すぐ】	7日分
③アダラートCR錠 20mg	1錠
【朝食後すぐ】	7日分
テノーミン錠 50	1錠
【朝食後すぐ】	14日分

<薬袋表現>

- ① 1回に錠剤各2錠お飲みください。（2種類）
（カルボシステイン・アストミン用）
1回に錠剤1錠お飲みください。（ムコサル用）
- ②1回にカプセル1個お飲みください。（アルタット用）
1回にカプセル1個お飲みください。（ドグマチール用）
- ③1回に錠剤1錠お飲みください。（アダラート用）
1回に錠剤1錠お飲みください。（テノーミン用）

- (3) 一回半錠で服用する薬剤が処方されている場合
 一回半錠で服用する薬剤が処方されている場合、半錠は分包して調剤を行う。調剤例の場合、ラニラピッド錠及びチラーヂン S 錠は各 3.5 錠分包する。

①スピロノラクトン錠 25mg	1 錠
ラシックス錠 40mg	1 錠
ラニラピッド錠	0.5 錠
チラーヂン S 錠	2.5 錠
【朝食後すぐ】	7 日分

<薬袋表現>

- ① 1 回に錠剤各 1 錠お飲みください (2 種類)。
 (スピロノラクトン・ラシックス用)
 1 回に錠剤半錠お飲みください。(ラニラピッド[®]用)
 1 回に錠剤 2 錠と半錠お飲みください。(チラーヂン用)

- (4) 服用時間によって用量が異なる (不均等調剤) 場合
 薬袋に薬剤を総数入れ、薬袋の記載事項を確認する。

① グリベンクラミド錠 2.5mg	3 錠
【朝夕食後すぐ】	14 日分
【朝 2 錠 夕 1 錠】	

<薬袋表現>

- ① 1 回に錠剤朝 2 錠、夕 1 錠お飲みください。

一包化調剤例

一包化調剤は、オーダー指示により服用時間毎（縦割り）もしくは処方毎（横割り）で行う。また、散剤が同時に処方されている場合、服用時間毎（縦割り）調剤は別に薬袋を発行し、処方毎（横割り）調剤は同一薬袋調剤とする。

(1) 服用時間毎（縦割り）一包化

処方内容		調剤内容		薬袋表現
①レバミピド錠	3錠	①レバミピド錠	1錠	①朝食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。
ペルサンチン錠	9錠	ペルサンチン錠	3錠	
ミヤBM細粒	3g	ファモチジンD錠	1錠	
【毎食後すぐ】	7日分	【朝食後すぐ】	7日分	
②ファモチジンD錠	2錠	②レバミピド錠	1錠	②昼食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。
【朝夕食後すぐ】	7日分	ペルサンチン錠	3錠	
		【昼食後すぐ】	7日分	③夕食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。
		③レバミピド錠	1錠	
		ペルサンチン錠	3錠	
		ファモチジンD錠	1錠	④毎食後すぐ 7日分 1回に散薬1包お飲みください。
		【夕食後すぐ】	7日分	
		④ミヤBM細粒	3g	
		【毎食後すぐ】	7日分	

(2) 処方毎（横割り）一包化

処方内容		調剤内容		薬袋表現
①レバミピド錠	3錠	①レバミピド錠	3錠	①毎食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。 1回に散薬1包お飲みください。
ペルサンチン錠	9錠	ペルサンチン錠	9錠	
ミヤBM細粒	3g	ミヤBM細粒	3g	
【毎食後すぐ】	7日分	【毎食後すぐ】	7日分	②朝夕食後すぐ 7日分 1回におくすり1包お飲みください。
②ファモチジンD錠	2錠	②ファモチジンD錠	2錠	
【朝夕食後すぐ】	7日分	【朝夕食後すぐ】	7日分	

散剤

基本的原則

(1) 基本的に散剤調剤における優先順位を下記のように定める。

- I) 処方中に分包品がある場合は、分包品を使用する（1回2包以上服用する場合を含む）。
- II) 分包品と秤量薬剤が同時に処方されている場合は、秤量薬剤のみ秤量分包する。
- III) 分包品の規格量と異なる処方がある場合は、分包品をバラして秤量分包する。

散剤分包品リスト

アズロキサ顆粒 2.5% (0.6g/包)	ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒 (2.5g/包)
アデホスコーフ顆粒 10% (1g/包)	ツムラ大建中湯エキス顆粒 (2.5g/包)
アミノレバン E N 配合散 (50g/包)	ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒 (2.5g/包)
アローゼン顆粒 (0.5g/包)	ツムラ半夏瀉心湯エキス顆粒 (2.5g/包)
クラシエ柴苓湯エキス細粒 (2.7g/包)	ツムラ補中益気湯エキス顆粒 (2.5g/包)
エレンタール配合内容剤	ツムラ麻黄湯エキス顆粒 (2.5g/包)
クレメジン細粒分包 2g (2g/包)	ツムラ抑肝散エキス顆粒 (2.5g/包)
コランチル配合顆粒 (1g/包)	ツムラ六君子湯エキス顆粒 (2.5g/包)
酸化マグネシウム原末「マルイシ」 (0.5g/包)	P L 配合顆粒 (1g/包)
シナール配合顆粒 (1g/包)	プロマック顆粒 15% (0.5g/包)
シングレア細粒 4mg (0.5g/包)	ヘパン ED 配合内容剤
スクラルファート顆粒 90% (1g/包)	ペラゾリン細粒 400mg (0.5g/包)
ツムラ温清飲エキス顆粒 (2.5g/包)	ベリチーム配合顆粒 (1g/包)
ツムラ葛根湯エキス顆粒 (2.5g/包)	リーバクト配合顆粒 (4.15g/包)
ツムラ加味逍遥散エキス顆粒 (2.5g/包)	ロキソプロフェン Na 細粒 10% (0.6g/包)
ツムラ五苓散エキス顆粒 (2.5g/包)	

(2) 調剤単位

処方毎に調剤し、一回服用量・用法・投薬日数のいずれかが異なるものは薬袋を別に発行する。また、錠剤（カプセル剤を含む）と散剤で一回服用量・用法・投薬日数が同じ場合は、同一薬袋にすべての薬剤を入れる。

(3) 単独調剤

抗菌薬、タミフルドライシロップ 3%、バルトレックス顆粒、薬用炭の秤量調剤及び散剤分包品の調剤は、単独調剤を行い薬袋は別に発行する。また、同一処方の中に 2 種類以上の抗アレルギー剤が含まれる場合や、散剤の不均等指示のある場合もそれぞれ単独調剤を行う。

(4) 賦形剤の取り扱い

散剤の秤取量が、下記に定める規定量以下の場合は賦形剤を加える。但し、抗菌剤及び顆粒剤の秤取散剤は賦形剤を加えない。また添加する賦形剤は原則として乳糖を使用し、処方箋に記載する。

	分 2 以上		分 1 もしくは頓服	
大人の場合	1.0g 未満/日	1 日につき 1.0g 添加	0.5g 未満/回	1 回につき 0.5g 添加
小人の場合	0.5g 未満/日	1 日につき 0.5g 添加	0.3g 未満/回	1 日につき 0.3g 添加

(5) 錠剤（カプセル剤）の粉砕

オーダーより錠剤（カプセル剤）の粉砕指示がある場合や錠剤（カプセル剤）を粉砕しなければ調剤できない場合は、錠剤（カプセル剤）を粉砕する。また、薬剤を粉砕して規定量に満たない場合は賦形剤を加える。薬剤の粉砕可否は、オーダー側の薬品マスターで制御する。粉砕する薬剤は、品目と数量を 2 名以上で確認した後に粉砕する。また、粉砕した薬剤の PTP シートなどは鑑査が終了するまで残しておく。

(6) 錠剤（カプセル剤）の粉砕と他の散剤の混合について

処方毎において、錠剤（カプセル剤）の粉砕薬と他の散剤（散剤の分包品を除く）が同時に処方されている場合は、それぞれを混合して調剤する。

散剤調剤例

(1) 散剤が一種類の場合

①酸化マグネシウム 【毎食後すぐ】	1.5g 7日分
②酸化マグネシウム 【毎食後すぐ】	3.0g 7日分
③酸化マグネシウム 【毎食後すぐ】	2.0g 7日分
④ミヤ BM 細粒 【毎食後すぐ】	2.0g 7日分

〈薬袋表現及び調剤方法〉

- ①1 回に散薬 1 包お飲みください。(分包品 21 包)
- ②1 回に散薬 2 包お飲みください。(分包品 42 包)
- ③1 回に散薬 1 包お飲みください。(分包品バラ 14g)
- ④1 回に散薬 1 包お飲みください。(秤量 14g)

(2) 散剤が二種類以上の場合

①酸化マグネシウム アズロキサ顆粒 【毎食後すぐ】	3.0g 1.0g 7日分
②ミヤ BM 細粒 アドソルビン 【毎食後すぐ】	1g 0.5g 5日分
③セフカペンピボキシル塩酸 塩小児用細粒 ミヤ BM 細粒 【毎食後すぐ】	90mg 1g 5日分
④PL 顆粒 ミヤ BM 細粒 セフゾンカプセル 100mg 【毎食後すぐ】	3g 3g 3カプセル 4日分

〈薬袋表現及び調剤方法〉

- ①1 回に散薬 2 包お飲みください。
(カグ用 分包品 42 包)
1 回に散薬 1 包お飲みください。
(アソキサ用 分包品バラ 7g)
- ②1 回に散薬 1 包お飲みください。
(ミヤ BM 細粒 5g とアドソルビン 2.5g を秤量し混合調剤)
- ③1 回に散薬 1 包お飲みください。
(セフカペンピボキシル用 秤量 4.5g)
1 回に散薬 1 包お飲みください。
(ミヤ BM 細粒用 秤量 5g)
- ④1 回に散薬各 1 包お飲みください (2 種類)。
1 回にカプセル 1 個お飲みください。
(分包品 12 包[PL]・秤量 12g[ミヤ BM 細粒]と 12カプセル
同一薬袋)

(3) 錠剤 (カプセル剤) を粉砕する場合

①グリチロン錠 【毎食後すぐ】 【粉砕:錠剤が飲めないため】	3錠 7日分
②テノーミン錠 50 【朝食後すぐ】	0.5錠 7日分

〈薬袋表現及び調剤方法〉

- ①1 回に散薬 1 包お飲みください。
(21 錠粉砕後分包。但し、粉砕重量が規定量に満たない場合は賦形剤を添加する。)
- ②1 回に散薬 1 包お飲みください。
(4 錠粉砕後分包。調剤例の場合 8 日分調剤し、1 日分廃棄する。また、粉砕重量が規定量に満たない場合は賦形剤を添加する。)

水剤

基本的原則

(1) 調剤単位

希釈調剤薬品は、処方毎に調剤し投薬瓶の服用目盛りを指示する。但し、希釈調剤薬品の単味処方で6日以上の場合は原液投与とする。原液投与薬品は単独調剤を行い1回量を指示する（退院処方及び外来処方については計量カップなどを添付する）。

希釈調剤薬品及び原液調剤薬品リスト

希釈調剤薬品	原液調剤薬品
アスベリンシロップ 0.5%	アルファロール内用液 0.5 μ g/mL (10mL/瓶)
アリメジンシロップ 0.05%	アルクレイン内用液 5% (600mL/本)
キョウニン水	イソバイドシロップ 70% (500mL/本)
セネガシロップ「メタル」	イトリゾール内用液 1% (140mL/瓶)
単シロップ	インクレミンシロップ 5% (250mL/瓶)
ビスルボンシロップ 0.08%	ガスコンドロップ内用液 2% (300mL/瓶)
サリパラ液	カロナールシロップ 2% (500mL/瓶)
ペリアクチンシロップ 0.04%	デパケンシロップ 5% (120mL/瓶)
ムコダインシロップ 5%	トリクロリールシロップ 10%
アヘンチンキ	フェノパールエリキシル 0.4% (500mL/瓶)
	ボンタールシロップ 3.25% (500mL/瓶)

(2) ラベル及び薬袋発行

水剤のラベル及び薬袋の発行は下記のように定める。

	ラベル表記	発行枚数	発行区分
希釈調剤薬品	1回に印の目盛り お飲み下さい。	総日数/7日	外来処方※：薬袋
原液調剤薬品	1回に○mL お飲み下さい。	用量/容器サイズ	入院処方◆：ラベル

※外来処方は退院処方含む

◆入院処方は退院処方除く

(3) 甘味料

甘味料は単シロップを使用する。バンコマイシン甘水以外の甘水処方は、単シロップを希釈用量の10%となるように加える。但し処方内にシロップ剤が処方されている甘水処方は、甘味料を加えない。

(4) 防腐剤

防腐剤は、4% p -ヒドロキシ安息香酸エチルを使用する。希釈調剤を6日以上行う場合、希釈用量の1%となるように防腐剤を加える。但し小児科入院患者の場合、6日分投与については防腐剤を加えない。

(5) 配合変化

配合変化などの理由により、単独調剤を行う必要性のある水剤は、別瓶を用いて調剤する。

別瓶にする水剤	
サリパラ液	ビソルボン syr 但し、咳杏甘水+ビソルボン syr の場合は、ビソルボン syr を別瓶にする。

投薬瓶の選択方法

(1) 小児の場合

原則として [1 日の水量×投薬日数] を基準として下記のように定める。但し、水量の記載がない場合は、1 回 10mL とする。薬剤の用量のみで投薬瓶の設定を超える場合は、一つ大きい投薬瓶を選択する。

分 3 の場合											
	1 日水 9mL 以下		1 日水 30mL		1 日水 15mL		1 日水 20mL		1 日水 60mL		
	大きさ		大きさ		大きさ		大きさ		大きさ		
1 日分	30	3 日分の 1 日目	30	2 日分の 2 目盛	30	15mL	30	20mL	60	2 日分の 2 目盛	
2 日分	30	3 日分の 2 日目	60	瓶の肩の 2 に○	30	瓶の肩の 2 に○	30	瓶の肩の 2 に○	100	瓶の肩の 2 に○	
3 日分	30	瓶の肩の 3 に○	100	瓶の肩の 3 に○	60	瓶の肩の 3 に○	60	瓶の肩の 3 に○	200	瓶の肩の 3 に○	
4 日分	60	瓶の肩の 4 に○	100	瓶の肩の 4 に○	60	瓶の肩の 4 に○	100	瓶の肩の 4 に○	200	瓶の肩の 4 に○	
5 日分	60	瓶の肩の 5 に○	200	瓶の肩の 5 に○	100	瓶の肩の 5 に○	100	瓶の肩の 5 に○	300	瓶の肩の 5 に○	
6 日分	60	7 日分の 6 日目	200	7 日分の 6 日目	100	7 日分の 6 日目	100	7 日分の 6 日目	300	瓶の肩の 6 に○	
7 日分	60	瓶の肩の 7 に○	200	瓶の肩の 7 に○	100	瓶の肩の 7 に○	100	瓶の肩の 7 に○	300	瓶の肩の 7 に○	

	分 2 の場合		分 4 の場合		頓服の場合
	1 日水 20mL		1 日水 40mL		1 日水 10mL
	大きさ		大きさ		
1 日分	30	20mL まで	60	40mL まで	希釈して 1 回 10mL
2 日分	60	40mL まで	100	80mL まで	◆6 回分以上は原液投与 ◆頓用で医師が 1 回分の 水量をオーダーしている 場合は、それに準じる。
3 日分	60	瓶の肩の 2 に○	100	瓶の肩の 4 に○	
4 日分	100	80mL まで	200	160mL まで	
5 日分	100	10mL 目盛り	200	10mL 目盛り	
6 日分	100	瓶の肩の 4 に○	300	240mL まで	
7 日分	200	140mL まで	300	280mL まで	

(2) 大人の場合

原則として [1 日の水 100mL×投薬日数] を基準として下記のように定める。

(外来の場合)

	分 3 の場合		分 4 の場合	
	大きさ		大きさ	
1 日分	100	2 日分の 2 目盛	100	8 目盛の 2 目盛ずつ
2 日分	200	瓶の肩の 2 に○	200	8 目盛
3 日分	300	瓶の肩の 3 に○	300	瓶の肩の 4 に○
4 日分	300	瓶の肩の 4 に○	300	16 目盛
5 日分	500	瓶の肩の 5 に○	500	30 目盛の 20 目盛まで
6 日分	500	7 日分の 6 日目	500	30 目盛の 24 目盛まで
7 日分	500	瓶の肩の 7 に○	500	30 目盛の 28 目盛まで
14 日分	500	瓶の肩の 14 に○	500	

(入院の場合)

	分2の場合		分3の場合		分4の場合		頓服の場合
	大きさ		大きさ		大きさ		
1日分	300	4日分の2目盛	300	4日分の1日目	300	16目盛の4目盛	希釈して1回30mL
2日分	300	4日分の4目盛	300	4日分の2日目	300	16目盛の8目盛	◆6回分以上は原液投与 ◆頓服で医師が1回分の水量をオーダーしている場合は、それに準じる。
3日分	300	4日分の6目盛	300	4日分の3日目	300	16目盛の12目盛	
4日分	300	4日分の8目盛	300	瓶の肩の4に○	300	瓶の肩の1に○	
5日分	300	4日分の10目盛	500	7日分の5日目	500	30目盛の20目盛	
6日分	300	瓶の肩の4に○	500	7日分の6日目	500	30目盛の24目盛	
7日分			500	瓶の肩の7に○	500	30目盛の28目盛	

水剤調剤例

小児の調剤例

(1) 用法が一日三回の希釈調剤の場合

①セネガ syr	2mL
ムコダイン syr	4mL
ペリアクチン syr	2mL
アスベリン syr	2mL
【毎食後すぐ】	3日分
【水 15mL】	

<薬袋表現と調剤方法>

- ①1回に印の目盛りお飲み下さい。
(投薬瓶 60mL を選択し、投薬瓶の肩まで水で希釈調剤する。投薬瓶の3を○で囲む。)

(2) 用法が一日二回の希釈調剤の場合

②セネガ syr	2mL
ムコダイン syr	4mL
ペリアクチン syr	2mL
アスベリン syr	2mL
【朝夕食後すぐ】	5日分
【水 20mL】	

<薬袋表現と調剤方法>

- ②1回に印の目盛りお飲み下さい。
(投薬瓶 100mL を選択し、投薬瓶の肩まで水で希釈調剤する。投薬指示は、10mL 目盛りを使用する。)

(3) 用法が頓用で希釈調剤の場合

③ペリアクチン syr	2mL
【頓用 掻痒時】	5回分
【水 10mL】	

<薬袋表現と調剤方法>

- ③1回に印の目盛りお飲み下さい。
(投薬瓶 60mL を選択し、50mL まで水で希釈調剤する。投薬指示は、10mL 目盛りを使用する。)

(4) 用法が頓用で原液調剤の場合

④ペリアクチン syr	2mL
【頓用 掻痒時】	6回分
【水 10mL】	

<薬袋表現と調剤方法>

- ④1回に2mL お飲み下さい。
(投薬瓶 30mL を選択し、ペリアクチン syr 2mL 原液調剤する。)

大人の調剤例

(1) 外来処方

①キョウニン水	5mL
サリパラ液	10mL
単シロップ	10mL
【毎食後2時間半】	5日分

<薬袋表現と調剤方法>

- ①1回に印の目盛りお飲み下さい。
(投薬瓶 500mL を選択し、投薬瓶の肩まで水で希釈調剤する。投薬瓶の 5 を○で囲む。)

(2) 入院処方

②キョウニン水	5mL
サリパラ液	10mL
単シロップ	10mL
【毎食後2時間半】	5日分

<薬袋表現と調剤方法>

- ②1回に印の目盛りお飲み下さい。
(投薬瓶 500mL を選択し、7日分の5日目まで水で希釈調剤する。7日分の5日目に服用指示を入れる。)

その他特殊な水剤の調剤

(1) バンコマイシン甘水

①塩酸バンコマイシン散	2g
注射用水	20mL
単シロップ	20mL
【毎食後すぐと眠前】	4日分

- * 塩酸バンコマイシン散（内服用 0.5g/V）を注射用水で希釈調剤する。
- * 調剤例の場合、塩酸バンコマイシン散（内服用 0.5g/V）16V を注射用水で溶解する。
- * 単シロップは、注射用水と等量加えて調剤する。調剤例の場合、注射用水 80mL 及び単シロップ 80mL を使用する（1回 10mL 服用指示）。
- * 防腐剤は不要（14日間安定）
- * 冷所保存

(2) 硫酸アトロピン水

②アトロピン硫酸塩注《0.5mg/1mL》[内服用]	1.8mL
【分6】	5日分
【水6mL】	

- * アトロピン硫酸塩注を使用する。
- * 矯味の為、全量の10%の単シロップを加え全量とする。
- * 調剤ラベルには1回は印の通りと印字されるので、服用指示を「1回 1mL」と書き換えること。
- * 調剤例の場合、アトロピン硫酸塩注《0.5mg/1mL》4A（4mL）を使用し、全量 30mL・1回 1mL 服用指示をする。
- * 水の用量は、処方箋に記載された用量で調剤する。

(3) でい咳杏甘水

③キョウニン水	5mL
サリバラ液	10mL
単シロップ	10mL
コデインリン酸塩散 1%	5g
【毎食後2時間半】	5日分

- * 同一処方内に散剤と水剤がある場合、基本的に個々に調剤を行うが、薬品マスターの溶散薬フラグの指定を受けた薬剤については、散剤を水剤に溶かし込む。
- * 調剤例の場合、5日分の咳杏甘水にコデインリン酸塩散 1%25g を溶解させる。

(4) 消化管造影剤

④ガストログラフィン	60mL
【検査時持参】	

- * 製剤開封後の安定性のため、製剤規格量を調剤単位とする（分割調剤は行わない）。
- * 調剤例の場合、ガストログラフィン 100mL を払い出し、ラベルに 40mL 廃棄の旨を指示する。

(5) アヘンチンキ（麻薬）

⑤（局）アヘンチンキ	1.5mL
【毎食後すぐ】	5日分

- * 1回量が 10mL となるように調製する。
- * アヘンチンキは麻薬であるので最後に加えること。
- * 調剤ラベルには 1回は印の通りと印字されるので、服用指示を「1回 10mL」と書き換えること。

外用剤

基本的原則

(1) 調剤単位

調剤方法は、原則として薬剤毎に行う。このため薬剤毎に薬袋もしくはラベルを発行する。

(2) 混合調剤

オーダーより混合指示がある場合（軟膏剤の混合など）は、混合調剤を行う。また、薬袋は一つに取りまとめる。

(3) 優先剤形

処方に包装規格品が存在する場合、包装規格品を用いて調剤する。また、軟膏剤やクリーム剤の調剤において、秤量調剤する場合は電子天秤で用量を分取する。なお、容器は秤量量に最も近似したサイズを選択する。

秤量する軟膏・クリーム剤リスト	軟膏・クリーム剤の調剤容器
亜鉛華（10%）単軟膏	10、20、30、50、100g
フェノール・亜鉛華リニメント	
白色ワセリン	
レスタミンコーワクリーム 1%	
10%サリチル酸ワセリン軟膏	

(4) 外用液剤

外用液剤は包装規格品の規格量で調剤可能な場合を除き、水剤調剤に使用する投薬瓶を用いて調剤する。また、投薬瓶の蓋は内服液剤との識別のために赤色キャップを使用する。

外用調剤例

①ベガモックス点眼液 0.5%	2本
0.1%フルメトロン点眼液	2本
【両目 1日3回 1回1滴】	
②マイザー軟膏	10g
白色ワセリン	10g
【混合】	
【1日2回 発疹部位】	
③モーラスパップ	3袋
【1日2回】	
④硼里液	30mL
【1日2回】	

〈薬袋表現〉

- ①目薬 1日3回 1回1滴 両目
(薬袋が2枚発行される。)
- ②ぬり薬 1日2回 発疹部位
(薬袋が1枚発行される。)
- ③貼布剤 1日2回
(ラベルが1枚発行される。)
- ④製剤 1日2回
(ラベルが1枚発行される。)

その他特殊な外用剤の調剤

(1) パー含嗽

②滅菌精製水	475mL
オキシドール	25mL
【1日2回】	

*滅菌精製水にオキシドールを指示量加えて調剤する。

(2) AZ 含嗽用配合細粒+キシロカイン液 4%

③AZ 含嗽用配合細粒	12包
キシロカイン液 4%	90mL
滅菌精製水	1500mL
【1日2回】	

*500mL を製剤単位として、4日分を限度として調剤する。

*調剤例の場合、滅菌精製水 500mL に AZ 含嗽用配合細粒 4包を加えて溶解し、キシロカイン液 4%30mL を添加する。

(3) 十塩吸

④炭酸水素ナトリウム	35g
塩化ナトリウム	35g
【1日1回】	

*1包 5g を製剤単位として調剤する (分包紙は無印字)。

*調剤例の場合、炭酸水素ナトリウム及び塩化ナトリウムを各 35g 秤量混和し、14包に分包調剤する。